
鏡の中の僕ら

R D S

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鏡の中の僕ら

【Nコード】

N8898A

【作者名】

RDS

【あらすじ】

俺はある夢を毎晩ここ最近見るようになっていった。ある日俺はある人物に出会う。それから俺の恐怖が始まった。

人影（前書き）

えつと・・・初投稿です。^^;

変な文章ですが読んでもらえれば光栄です。

あとRDSって名前はテニスラケットから来てますW
余談でしたねW

人影

白い砂漠の中俺は歩いてる。

どこに向かうわけでもなく。

ただひたすら。

一時間ぐらい歩いただろうか。

俺は上を見上げる。

ただなんとなく。

月もあるが・・・太陽もある。

対等的ではあるが同じ目的。同じ印象。

綺麗だ・・・。

前から人影だけが立っている。

誰かを待っているかのように。

人はいない。

影は白い砂漠には対象的だった。

俺は驚きもせず影のところまで行くと

影はいきなり俺を指さし

「俺はお前だ。」

瞬間ノイズが走る。

人影の言った言葉が繰り返される。

「オレハ・・・オマエダ・・・オレハ・・・」

やめる・・・。

「オマエダ・・・」

ヤメテクレ……。

声が出ない。

影が俺に近づいてくる。

「オマエハ……オレナンダヨ。」

黒がこの白い世界を埋め尽くす。

俺は成す術もなく

影にとらわれていく

ただ……もがいてもがいて

ポチャン……。

残るは人影のみ……。

白い砂漠から黒い荒野……。

人影は笑う。

黒の荒野をみて

ただひたすら

人影（後書き）

うつわく。なんか変な終わり方だよ。
と思った方！勘弁してください！
コレが精一杯なんですw

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8898a/>

鏡の中の僕ら

2011年1月13日08時46分発行